

139
8
189

館書圖京東				
八	九	二	新	和書門
冊	號	架	函	

三世の光
一

019460-001-1

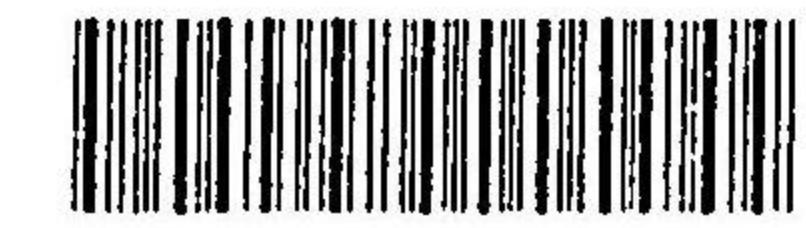
139-189

三世の光

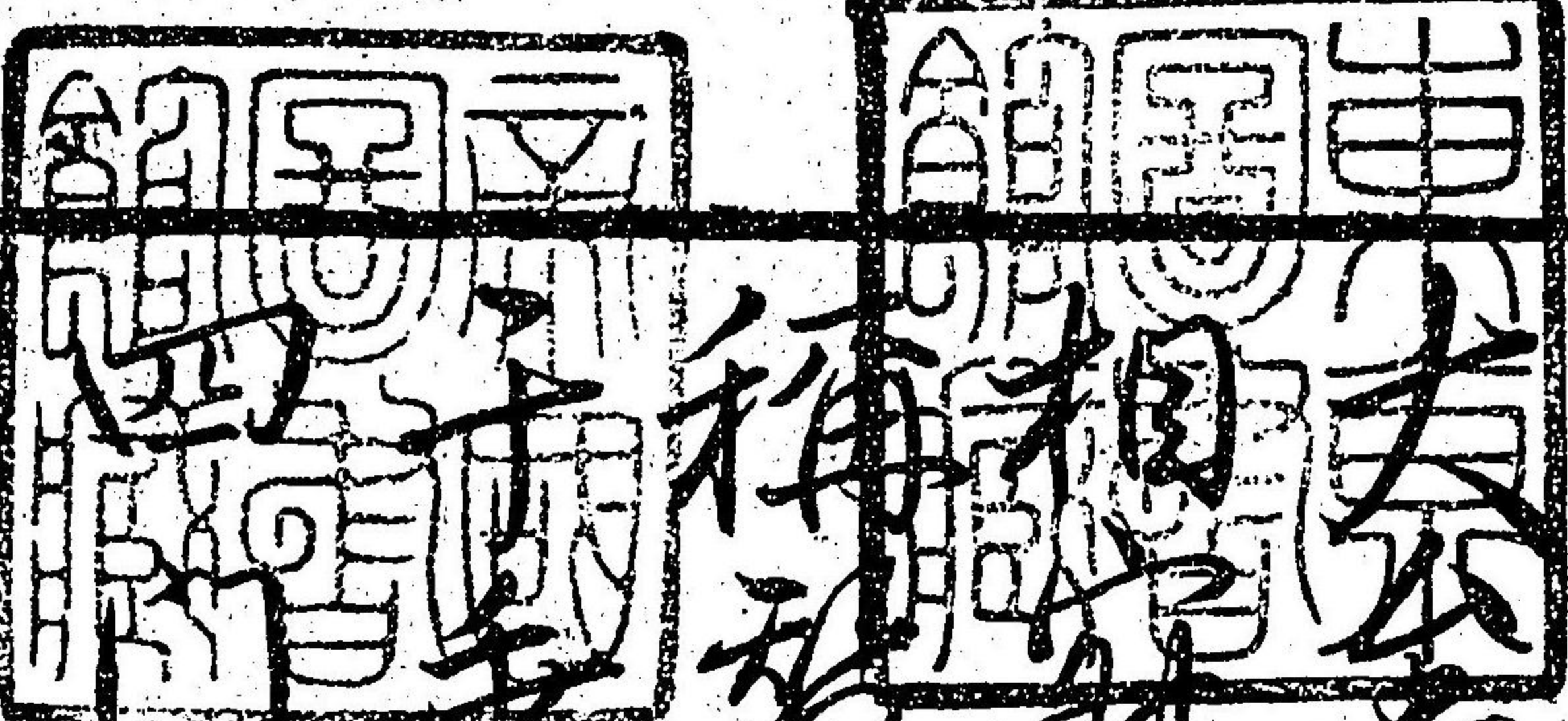
皓月尼/著

M15.9

ABG-0178



夫本去哉薄伽梵法身虛應無
相妙色無為業用自在
稱贊不可思議不可及到
垂遠印度降誕釋種行於
而見老病死樞杵高臺
而觀空無常潛踰城出家赴



跏趺伽脫瓔珞之寶衣著藤
聲之法服苦行精進剝皮刻
骨竟坐金剛坐上摧纏蓋之
山在菩提樹下證得薩婆若
四八大人之相勝妙殊絕八
千阿形之好映徹無曜其威

儼然圓滿無方非言思之
所及也於此時也一切之佛
法一時顯現魏之平蕩之采
轉法輪於三子現分身於百
億身梵王諸天來降變化千
生四輩投歸淨果雨雜華於

七處說阿含亦祇林三字二
本普蒙滋潤六道四生共到
彼者加之方等般若之場聽
駕於羊鹿牛靈鷲娑羅之會
俱涉於象馬兔示衣裘之妙
珠而拜金剛之寔茲可謂化

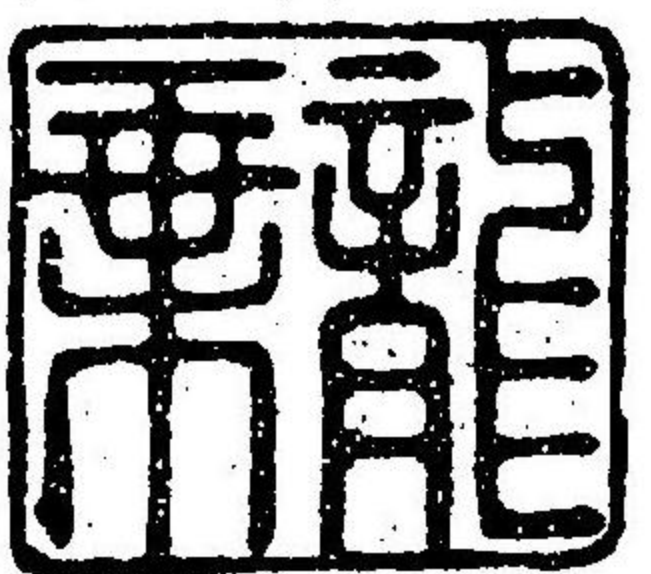
緣頓為能了已畢矣於是人
天失全世界空虛傳燈存寶
弘道在人故提河波靜之象
無滅勸向終之議經策挽回
梅檀薪盡之夕波旬感歎喜
之心透喙殷勤畢鉢跏座醫

緩兮唱故結集雖分內外三
藏雖異有共俱是金口親詮
醇采謹達磨也自爾以來多
歷年所去降時稱諸象道宗
我外一華之芽開論師馳名
相則始悟漸修之教分徒誦

契經雖瞠毘尼空論鈔疏不
修實行求解者衆多求道者
白少不尋心要之者塔不知
八相之化傳正法之脈脈於
是乎幾將預絕嗚呼可不悲
哉皓月比丘尼研精積思者

年於茲據有部破僧子及與
親近譜等纂集化儀之大綱
解以園字以導額蒙可謂勅
矣有信事女解公禱也以此
在利益句序於余之隨處
餘題述云于卷首如是

文政十三年亥寅初秋
住洛西二宮寺慈智乙雲
龍乘敬撰



Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or letter. The text is written in a dark ink on a light-colored paper. It consists of approximately 12 lines of text, starting with a large initial letter. The script is highly stylized and difficult to decipher without a key.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or letter. The text is written in a dark ink on a light-colored paper. It consists of approximately 12 lines of text, starting with a large initial letter. The script is highly stylized and difficult to decipher without a key.

きむの夕乃雲くもは多を備へ侍連しやくれんは方りてを納めなごめね事
侍侍なるまこと其時の人を連て智恵ちゑありかたなくも人相にんさうは西免
ぬぬあつての連れんあつて其日あつて日れつてをえりる五ね事六日
七日れつてをえたんとすやうにあらぬ世乃人をもを多くせんれく
やうにならぬれは番ばん福ふくのれ系けい終しゆうあつてふび生いたはなめあ
それらる種ねをう急そく其成長そくちやう一熟じやくす侍をまらしてふひのめら
其中に懶惰らんどうはたはあつてふびあつてふびあつて人たうを
里りとあつて繁はんはふ人たあつてふびあつて改かい事じにう人たあつてふびあつて
ふつとあつてふびあつてふびあつて後ご立たてう
ては芳ほうす侍しやくはたははに芳ほう一樂らくす侍しやくはたははたはたはたはたは

里のなつとあつてふびあつてふびあつて田で地のりぎらあつて
まは懶惰らんどうの人たあつてふびあつてふびあつて田で地のりぎらあつて
族ぞくもあつてふびあつて田で地のりぎらあつてふびあつて田で地のりぎらあつて
同どうのふびあつてふびあつて田で地のりぎらあつてふびあつて田で地のりぎらあつて
里りとあつてふびあつてふびあつて田で地のりぎらあつてふびあつて田で地のりぎらあつて
一いつとあつてふびあつてふびあつて田で地のりぎらあつてふびあつて田で地のりぎらあつて
あつてふびあつてふびあつて田で地のりぎらあつてふびあつて田で地のりぎらあつて
れは薩さつ埴ぢをうのりぎらあつて後ご立たて又また薩さつ埴ぢをうのりぎらあつて
たつとあつてふびあつてふびあつて田で地のりぎらあつてふびあつて田で地のりぎらあつて
衆しゆをえらふと其時そのときあつても智恵ちゑを世よにすべた人たあつてふびあつて

すめふこといひたりて下しき年月あり又其の静ある
ことをねがふ人何れも懸落をいひ山にのりて道を修
けし時其人の事を貴みて婆羅門とよぶ婆羅門は梵語にて
その地は清淨なり人
も多かりし其の中に二名懸落し帰るに五欲を去りて男
女北南をなせし人あり其子孫婆羅門種姓とよぶこの
種姓は人々文をなすは道を修す事とて其の地
ひらけし後梵天王はまゝなりて十四音の梵文を傳へせし人此はほんとは
梵王の御り多しは初より傳はり諸佛も是を御りて其の事を説きよとて又其の
を好みにて好まざるものもふて財宝を何れもあらずして
なり是を毘舍といふ毘舍は梵語にて
座とよぶ人の姓と一切農人を首陀羅と
いふ首陀羅は梵語なり此四姓をなす人の心もあまぐめて何れもいひ
るに清淨なり

多くなりゆをばれやけと輔佐おけしはまのりごとたり
あまのりゆまくに智慧何れ人をえらび國にたすけとせしめ
大臣百官乃けり然るにこれよりやうく位階官職などをもさ
だめらまはすと行ん大同意王とこれいせめいれは意樂太子
位にのりせめ次に善徳王次に最勝王次に長淨王次に頂生王
而す多うち強きゆをいせめ人人民智恵次第にまかり
おけり一藝をなすやうにまかり是を善後経といはれり
なる世に中下利て人よりぬり多くなりぬれり壽命もみ
たりて十万余年をりてその後其の末端嚴王を殺す代り
轉輪王して十善をもて世をなすめ其の後に王を龍護王

とかし其改を吉根王と稱し此より是人壽二万衆此より
迦葉如來せいでしせむい宿生を悔度せむせむ釋尊ハ其
時善薩此三大阿僧祇劫乃歩形をみて多し迦葉佛に成
佛此記別をうせむせむせむより準率天乃内院に生どり乃天
此ために佛法を説き多し世界人の根機此熟す依をより
おけし由は是より阿耨多羅三藐三菩提代なるはこころて惡念王
少や一善家阿耨多羅三藐三菩提をうけしせむして半をこころ
天賦の由のよこねより人乃壽命万衆にすき法をせむより
後に賢念王とかしおけし由をうけし人此身の阿耨多羅三藐三
鑿を洗くせむ其のちは五子衆おすむ壽命なりなるも又其後

に時此太子五人の人をこころ一あり事ありそれより壽命はら
みみどりありてふ歳中はすぎはらむよりそまよりせむ傳を
了るは後此王を軍勝王とかし善薩此阿耨多羅三藐三菩提を
皇子一所をうみまをらせむ一乃宮を炬面王子とかし二此宮
を大耳王子三此宮を象行王子四宮を宝劍王子とかしなる
其四所の后ほどもむくみながらはせむ大王乃歩形はきむ
とくはらむはまの事なむこれならせむせむせむは君臣これ
をわたりみ大はたらはらむのりてはらに后をきりてせむと奏
せむはまどみきたら此由よりももどおけし由はとそみむこ
けおれたまもは大はたらはらむももも志のせむはては國家乃

この世にバツその愛をなすごとくせむ群臣四王子は此の
はくにみほさびあはなまると養父大王いといたういへせたまは
市園（その）のまらるるを御車をこらう一むはゆ々きこけりげめて
深宮（いんぐう）入せぬやぞて群臣をあらわす四王子さうく罪すまは
とらせぬにたててとらり一事なまばみなることをもとらん
此四王子を擯棄（ひんき）せしむるまでは市園のまらるるごとく礼を侍
らんと養父をいよりて宜旨（よし）ありて後四王子を擯出（ひんしゅつ）せよ
とらふそのちよた日して愛樂王子春宮（あつらく）にたせぬ四処の王
子はおぼしむるにみよこをりてはせぬ北をあらておりまた
群臣はともまらるるせめておらなせぬ事なせし人なる事なり

世はつとよおなふたは信にとてとくに都を出ていふ
お人もすくなくしむる山（せん）はみもと恒（つね）あはれとてらたおす
はつとよおなふたは信にとてとくに都を出ていふ
まをせぬりよこすすなごらるる世をすくもるに人志は
阿のまらるるほどむらう國城（こくじやう）とぞならるは此処ふるより却比
羅（ら）仙人（せん）といふ仙（せん）はりのたまふことたれおけし道
をさすせぬはつとよ仙人をうく人氏多（た）なるて静（しやう）なる福は
まらりたふをぬをむとてはらぬとて阿のまらるるにみこら仙人
ハねがくこにすみ人ゆらぐはつとよのまらるるにみこら仙人
はつとよ福徳（ふくとく）は部の地をむとめ信なるとて阿のまらるる中三竺の

うちに徳地をえらびてすまふし世に後家四王子是にうけりて
 あふ世都もつるえんえん人民ゆめがみふなる事ゆりつみやすくすめ
 了却ふひらえん比羅仙人乃定められし家都こやと形まば却思ふひらえん羅城らじやうといふ梵語
こくに黄色といふ舊譯此却毘羅城このふひらえんも又信人多くなるゆをば家
 長かたきを形くべゆりゆを阿まれば家地なるちるち其時天神
 阿くそれたまひ王子乃ために福徳社地を定むとて雲山北
 子とくに都社地を志先さふ世思ふく然くともひ民をわくちく
 を出めさるふ天えん神社志めはれしみちこ形れ天示城といふ
 此都も又あえん事とて軍勝大王ぐんしょうこれゆ阿るとも福をゆくとすこの時
 ありいたうとらばすてわが子大釈迦とれし事釈迦の梵語

イヤウ
 此時より釈迦イヤウ氏れ号ゆてまうりわ是にうけて今世書をも釈迦
 如來とすし家法なる事今世書釋迦如來とすゆはとけありまはるの
あんとそを釋迦とせむりともあり現世乃福其後軍勝大王そのちぐんしょう
軍勝大王の弟とはよりたこれゆ愛樂太子少位にのせあふ世大王命みうけけゆみとえ
 おりまは下崩おんたふば群ぐんは維面王子をとりまあらきて少位
 にの書を傳はてけら維面大王少位とうとのみとたをけめ群は
 をも然あり集めてのささる事羅なりて都をいでしは後の后
 後直らけによきり今より後家ごけ家けは弟三乃后をたのむる
 けと勅ちくしおきり孫へ世大王をみとおりゆき下崩おんたふす弟二
 世大身王子弟三の象ぞうり王子のきり少位ふあさるふみること

おり由は下流にたまふ上終に才四所宝劍王子歩位に以て
 まは是太子れり由は歩位に以てせむひて近宝劍王とかし
 其歩子を天門大王と申世帝むを志してせむひて却毘羅城
 へついでせむひ世を志りて終にこれより天示城ハ親王たるの誓
 ますと世なるのそむく世なるうたせむひて後此王を堅
 弓王と申し世なるのそむく世なるうたせむひて後此王を堅
 子とかし一才二を師子吼王子と申師子類王子歩位に以てせ
 むひて天門下を志りて終に歩勇力せむ由はくせむひて
 せむふと五天竺ふなるびなる人なるなるとあん世大王ハ親王の師
祖父を許す
 此時天示城ハ王を善悟王と申其妃を奴勝丈人とかし

此善悟王と師子類王と申ふは歩勇力せむ由はくせむひて
 代なるに里ねればきしうをとおる由は終善悟王これをも
 うせむひよき世めみとせむひて後にたせむふなるは
 にいれり彩はふ却毘羅城ハ師子類大王たばはるに
 へは輪王歩勇力せむひをせむ歩ふなるの誓と多入て輪王も
 出あを臣王位おとらへり歩位に下聖王子乃たりまて輪王の
 歩位もたがりのそむく世とて天神地祇ふにたのやせむひ
 せむ下生るもきいたせむひ師子類大王善悟王の歩みとら乃
 おこもふ縁起不可思議なりなる世此大王にみよ四所おりまは
 一を淨飯王子才二を白飯王子才三を餅飯王子才四を其嘉飯

王子と申し侍又女と四趣おけ一浦は一を清浄と申し才三を
純白才三を純解才四を甘露と申し才海は才海と申し天示城
あはれなる妙勝主人女とをうまするのちをうまするのちをうま
ゆりうおり浦一才をうまするのちをうまするのちをうまする
と乃あまうまうまうまうまうまうまうまうまうまうまうま
はせむをうまうまうまうまうまうまうまうまうまうまうま
定光の才と申し摩訶波蘭波授と申し才をうまうまうまうま
と申し梵天 王宮にみこうまうまうまうまうまうまうまうまうま
ら海定めなりと申し世も相師を申し女と申し才相をと申し
あまうまうまうまうまうまうまうまうまうまうまうまうま

せば勢の才と申し相一才を善悟王と申し才と申し才と申し才
才をうまうまうまうまうまうまうまうまうまうまうまうま
ゆりうまうまうまうまうまうまうまうまうまうまうまうま
提不才と申し才と申し才と申し才と申し才と申し才と申し才と
は諸天の中より志をうまうまうまうまうまうまうまうまうま
アと申し才と申し才と申し才と申し才と申し才と申し才と申し
みに申し才と申し才と申し才と申し才と申し才と申し才と申し
才大王と申し才と申し才と申し才と申し才と申し才と申し才と
ひふた才と申し才と申し才と申し才と申し才と申し才と申し才と

なむのけり世事せぬるうらなふきば五天竺の人々う輪王の
たえてらでせぬをひてふれ世ふうるせぬべきあり
けりといふ事なるらびなふことかぎりけり却毘羅城の淨
飯王子のたをびせぬひ春宮にせぬ大王天示城の輪王は
母とならぬをなまひぬまおほくまた事をきつせぬひ心乃
らちに所縁がひれぬに聖王の出せぬなる事なりと志る
知りいとうけりいかにおぼく相師乃金輪王をうみぬべと
案一々後帝いふこときみせむるひ春宮に妃にたえ免はせぬ
五百の嫁女はあつらふまじくせぬすべれた縁をえくせたまひ
てよき目してむくはせぬはうこまもゆかきかたひるひめでなき

帝何れは海とをなやと帝あひぎみぬ大王がたおほくやうありはる
よりをたふしおほくせぬをさうらるる國は山の間に般茶婆といふ処
阿羅世起代民むはんてそれほとりの人民をえんは敵せいとら乃
たぬ小官軍をむくはせぬをかろ務めようして殺後敗軍して
のるらぬこれゆかり大王太子に勅しむ四岳をそりてうら地よ
むつとせぬ般茶婆は太子れみりうし出はせぬふときくみるおどろ
き悪れてすまふに降し彼國安らうに治るぬはれバ官軍やいむよ
血ぬらすて敵をまじく都にうらせぬ大王これなきころめてハ
よららぬせぬふこといふたおらふおらうはんはつとをよて賞一ま
あつせぬせんやとたげすまの群信をたぬ般茶婆治れるハ太子れ大

たつりけり世事せむるうらなふも五天生のくろく輪王の
たえてらでせせめをひらく世よ
かやとくひまふらふらびもなこもかざりけり却毘羅城の浄
飯王子やうたをびせめひ春宮にせめふ大王天示城の輪王は
母とせめあやなむひめおはけりまた事をきりせめひ心乃
うちに帝神がひれゆに聖王の出せめふ事になれり
知りいとうけりまににおぼく相師乃金輪王をうみあべと
養ひく侍師いふうとせめみせむふひ春宮に妃にけり免はせめひ
五百は嫁女はあふらむせめふ世あすなれたるをえりもせたまひ
てよき日一とせりはせめふゆうふもゆかまかたひのひめたき

ゆはりは海とをむらりゆあひきみも大王おぼくやうあけりゆに
よりをせりあひあうせめあそころる國は山の間ふ般茶婆といふ処
阿室世起民むはん一とそれほとりの人民をえりゆ敵せいとら乃
ためお官軍をむらせめふもかろ務らゆう一と殺後殿軍一と
うらりぬこれゆのり大王太子に勅しむ四兵衛とそらあてり乃地よ
むらとせめふ般茶婆は太子けみゆう一はせめふとまきみあおとら
まはれてすまふに降し彼國安らりに治るぬはれバ官軍やいよ
血ぬらす一と敵をきりぬ都にりせめふ大王これをもきりてハ
よららむせめふもいふたおらふおらゆはんゆとをよて賞一ま
あはせめふとねげりまの群信を多く般茶婆はゆるハ太子け大

切なりゆきをして賞すべしとてをあらたにひたり大后歩位うを
之おほしほせたまはきまむとて玉乃ゆのをことしつれ先下
たく先づらきう一たてしほあらせりて奏せし大后太子位は
玉乃ゆのを切を賞すはあらはの御也とせし又御りの大后はう
ろをまはせまむとて奏せし大后太子位はみる春宮のは
かきと後御の御をいひわたりてをまはせしとせしは群臣こと
をたてて后下切を賞すはは群臣のはら先侍るべきなり春宮
位切を賞しはあらせりて大后太子位はみる春宮
と奏せし大后太子位を賞しは普天率土はみる春宮
宮をあらはせしはあらせりて太子位はみる春宮はみる春宮

市位とておほしほせたまはきまむとて玉乃ゆのをことしつれ先下
一室勅するまむとて大后はおほしほせたまはきまむとて玉乃ゆのをことしつれ
うきあらせりて天示城へ勅使を立られ又五百乃姝女をえりて
比布比ににおほしほせたまはきまむとて大后太子位はみる春宮
子妃ふ立らせりて其後大后太子位はみる春宮太子位はみる春宮
のまはせし摩耶夫人と摩訶波國は授まんとてをあらたにひたり
一室勅するまむとて大后はおほしほせたまはきまむとて玉乃ゆのをことしつれ
おほしほせたまはきまむとて大后太子位はみる春宮太子位はみる春宮
やうて人民治世をあらせりてをあらたにひたり大后太子位はみる春宮
まはせし摩耶夫人と摩訶波國は授まんとてをあらたにひたり大后太子位はみる春宮太子位はみる春宮

みことれやうにとせめひなほ時ふけぬ家事ごらんとてあやう
もおほしあを説なほりて摩のり下里一面にせし黙然とて
おりまほ世尊これ候まらりし起出せむひゆ座にひせむ
て大目連をほめはせむのふとひあき大原比叡小家釈迦種む
よまろことをこほやうたぬ法小説をそつれたるまろ人けりてこの
説はまろ小此釋迦種族をとんそれ善男子善女人長夜比叡中大
に利益をほつし小安樂をそらんたらく比大原比叡比丘尼妙法り
憶念し他の爲に説く説下し此人利益をそつ法義をそつ梵行
をそつ大いし利益をそつ信のゆゑのみまらにま指し讀誦し
他はたぬ説下しとひをそつとせめひ劫毘羅城中のまろく

此釋種等此中族をとせめひをまろめひみさいとひたうと後
しひなまひゆをそつてみれが怨ふひる樂たはふ

139
8
189

卷之十八

